

ハンガリー大使館

ビジネス環境の改善をめざすハンガリー 〈ビジネスにやさしい環境の創造〉

中道右派政党FIDESZ（フィデス）新政権の最重要課題は、経済回復と経済成長の加速、ハンガリーの就業率を高めることである。これらの目標を達成するためには、経営環境の包括的な改良が必要となる。

2010年6月に、オルバーン・ヴィクトル首相は上記の改善に効果が期待される29項目から成る政府の政策パッケージを発表した。経済施策の要点は以下のとおりである。

- ・2014年までに中欧地域で最もシンプルで、競争力のある税制の創造をめざす。企業の利益に対して徴収される法人税は最初の5億ハンガリー・フォリントの年間利益に対する税率を以前の19%から10%に引き下げた。さらに、50種類ほどある税金のうち、10の細かい税種を撤廃。
- ・増大した官僚的制度は、経営環境の妨げになる要素である。経費削減のため、政府は早期に投資手続きの必要書類の3分の1の削減を開始。
- ・政府は、ハンガリー経済促進のため、既存の起業家向けの優遇政策枠を拡大した。

〈マクロ経済の見通し〉

深刻な不況からの回復基調が目に見えるかたちで現れており、輸出の伸び、貿易収支も黒字が続いており、2011年には、約2.5%の経済成長率を見込む。工業部門の成長率は平均経済実績を7～8.5%上回るとみられる。

2010年対GDP3.8%、および2011年対GDP2.8%の赤字削減をめざす新政府の決意は固く、また、一貫した経済対策の実現により、国家債務の削減（2010年の対GDP80%から2011年年末までに対GDP76%）にも実現可能な目標となっている。

〈相次ぐ投資〉

ここ数週間、ハンガリーの自動車関連産業界で大型投資の話題が続いた。詳細は下記のとおりである。



ハンガリー首相とアウディ会長の共同会見

◎アウディ

9月23日、ハンガリー首相とアウディ会長の共同会見が行われ、ハンガリー西部の町、ジュールにある同社製造拠点に対して、1000億円の追加投資を行う、との発表があった。

同施設では従来、エンジン製造と車体の組み立てを行っていたが、2013年までに1800名を追加雇用し、年間12万5000台の「A3」や「TT」シリーズ完成車を製造する予定である。この新施設がフル稼働した場合、ハンガリーのGDPを2%押し上げる効果があると期待されている。

なお、ハンガリー製アウディ車はすでに日本にも輸入されている。

◎GM

GMは現在、西ハンガリーのセントゴッドハールドでオペル車用のエンジンを製造しているが、同施設への約550億円の追加投資を発表した。

2012年11月に予定されている拡充後の年間生産能力は50万台、従業員約1000名の追加雇用が見込まれ、サプライヤーも含めると、3000人規模の雇用創出効果がある、とみられている。

ハンガリー政府は、上記2社の増資案件に対し、相応のインセンティブを与えることを決定した。

◎クノールブレムゼ

同じく9月、車のブレーキ装置メーカー、クノールブレムゼもハンガリー南東部のケケケメートに新しいプラントを建設する計画を明らかにした（同所では、2年前からメルセデス・ベンツが新施設の建設を開始している）。

これらの投資は、ハンガリーGDPを2～2.5%押し上げる効果がある、とみられる。

お問い合わせは、ハンガリー大使館 商務部 参事官 ヴァールコニ・ガーボル (TEL：03-3499-4951、FAX：03-3499-4918、E-mail：tokyo@itd.hu) まで。

